

# 船でついた町

小川未明

青空文庫



たいへんに、金をもうけることの上手な男がおりました。人の気（き）のつかないうちに、安く（やす）買って（か）おいて、人気（にんき）がたつとそれを高く（たか）売（う）るといふのでありましたから、金（かね）がどんどんたまりました。

土地（とち）でも、品物（しなもの）でも、この男（おとこ）がこうとにらんだものは、みんな（みな）さういふふう（ふう）に値（ね）が（で）出たのであります。この男（おとこ）と、さういふこと（こと）で競（き）争（そう）をしたものは、たいてい（たいてい）負（ま）けてしまいました。そして、この男（おとこ）は、いつか（いつか）だれ（だれ）知らぬもの（もの）がないほどの大金（おおがね）持ち（もち）ちとなつたのであります。

ある年（とし）、たいさう不景（ふけい）氣（き）がきたとき（とき）です。あわれな不具（ふぐし）者（じゃ）が、

この金持ちの門に立ちました。

「どうぞ、私をご主人にあわせてください。私は、もどあなた  
の会社に使われたものです。」といいました。

番頭は、しかたなく、これを主人に伝えました。

「ああそうか、私が出てあおう。」といって、金持ちは、  
へ出ました。すると、不具者は、  
玄関

「その後、不幸つづきで、そのうえげがをして、こんなびつこに  
なつてしまいました。働くにも、働きようがありません。どうぞ、  
めぐんでください。」と、訴えました。

金持ちは、だれでも、やさしくなるものです。ことに、こ  
の金持ちは、涙もろい性質でありましたから、

「それは、困るこまだろう。」と行って、めぐんでやりました。あわれな男は、喜んで帰かえつてゆきました。

すると、翌よくじつ日は、別の不具者べつ ふぐしやがやってきました。

「私は、片腕かたうでをなくなしました。働くにも働きようがありません。どうぞ、おめぐみください。」と、訴うったえました。

金持ちかねもは、なるほど、それにちがいないと考かんがえましたから、いくらかめぐんでやりました。

一日いちにちに、二人ふたりや、三人さんにんは、金持ちかねもにとつて、なんでもなかつたけれど、いつしか、このうわさがひろまるにつれて、十人にん、二十人にんと、毎日まいにち金持ちかねもの門もんの前まえには、もらいのものが黒い山くろやまを築きずきました。

不具者ふぐしやばかりでない、なかには、働はたらけそうな若者わかものもありました。そういうものには、金持かねもちが、きびしくただしますと、内ないぞ臓うに病びようき気があつたり、また探さがしても仕事しごとがなかつたり、聞きけば、いろいろ同どうじよう情じやうすべき境きやうぐう遇ぐうでありまして、一人ひとりに与あたえて、一人ひとりに断ことわるといふことができなかつたので、しかたなく金持かねもちは、みんなに金かねを分わけてやりました。

しかし、限かぎりなく、毎まい日にち毎まい日にち、あわれな人ひとたちがもらいにくるので、金持かねもちは、まったくやりきれなくなつてしまいました。「これは、どうしたらいいだろう、俺おれの力ちからで、困こまつたものをみんな養やしなつてゆくといふことはできない。またそんな理り由ゆうもないのだ

……。」

こう、金持ちは考えると、いつそ、みんなを断つてしまつたが  
 いいと思ひましたから、翌日から、門の扉を堅く閉めたので、  
 だれも中へはいれませんでした。

こうなると、いままで、救つてもらつたものが、まつたく食べ  
 られなくなつて、餓死したものもあります。世間では、急に、金  
 持ちの冷淡を責めました。新聞は、金持ちに、なんで、困つ  
 たものを見捨てたかと書きました。

金持ちは、とうとういたたまれなくなつて、どこか、人々か  
 ら目のとどかないところへいつて、考えようと思つたのです。

彼は、にぎやかな都会から、こつそりと逃げ出して、船に乗り  
 ました。そして、できるだけ遠方へゆこうとしました。船の中

で、

「や、こんなばかげた話はありません。私が、まちがつていましたらうか？」と、金持ちは、ものわがりのしそうな人に話しました。

「ほんとうに困っているのか、どうか、お見分けがつきませんでしたか……。」と、別の人が、口をいれました。

「はじめて顔を見たものに、どうしてそれがわかりましょう？」と、金持ちは、目をまるくしました。

「いや、ごもつとも話です。おそらく、みんなが困っているからでしょう。そして、あなたが、逃げ出しなされるのも道理と思います。ここから、百里ばかりへだたった、  
A 港エーみなとというところ



は、ちようど、あなたのおいでなさるのに、いいところですよ。」

と、ものわかりのした人は、ひと おし 教えてくれました。

かねも 金持ちは、どこへゆこうというあてもなかつたから、エーみなと A 港  
にゆくことにしました。ある日、ひ ふね 船は、その港みなとについたので、かね 金  
ねも 持ちは、じょうりく 上陸しました。

その町まちは静しずかな、なんとなく、なつかしい町まちでありました。気き  
候こうもよく、住すんでいる人々ひとびとの気持きもちも平和へいわでいるように見受みうけ  
られました。

かれ 彼は、いろいろのところへ旅りようこう行もしましたが、こないとい  
ころは、はじめてでした。いいところをあの人ひとは教おしえてくれたと  
かんしゃ 感謝かんしゃしました。

町のようすは、たいして変わってはいなかったが、たいへんに  
気持ちがいいのでした。

「どうして、この土地は、こう平和なんだろうな。」と、歩きな  
がら考えました。

あちらから、人のよさそうな、おじいさんがやってきましたか  
ら、金持ちは、近寄って、

「たいへん、あなたたちは、ゆったりとしていられますが、気候  
がいいからでしょうか。それとも金があつて、豊かなためでしょ  
うか？」と、問いました。

すると、おじいさんは笑つて、

「いいえ、まだ、この土地が開けないからです。それに、そう欲

の深いものがないからです。だんだんこの港に、船がたくさんはいつてきて、方々の人々が出入りするようになりますと、町もにぎやかになりますかわり、暮らしづらくなりますよ。なかには、そうなるのを望むものもありますが、私たちは、かくべつはんじょう 繁昌しなくとも、いつまでも平和に暮らしてゆくのを望んでのぞいます。」と、答えました。

金持ちは、不思議に思いました。

「繁昌すると、平和にならないというのは、どういうわけですか？」と、またたずねました。老人はあいかわらず笑って、おな「同じいような店が、いくつもできるようになります。そして、それらが、みんなよくやっていくには、たがいに競争きようそうしなけ

ればなりません。いまは、日が暮れば、じきに休みますが、そのなれば、夜もおそくまで働いたり、起きていなければなりません。」といいました。

彼は、なるほど、それにちがいないと思いました。

「いつまでも、静かな平和な町であれ。」と、金持ちは、心の中で祈つて、おじいさんと別れて、あちらへ歩いてゆきました。小さな町がつきると、丘がありました。彼は、丘へ上がりました。ここには冬もなく、うららかな太陽は、海を、町を、照らしていました。すこし上がると、ばらの花が咲いていて、緑色の草が、いきいきとはえています。

金持ちは、草の上に腰をおろして、たばこをすいながら、絵に

描いたような、あたりの景色にうつとりと見とれたのです。

「あのおじいさんのいったことは、ほんとうだ。無益な欲が、かえって人間を不幸にするのだ。そして、欲深になつたものは、もう二度と、生まれたときのような、美しい気持ちにはなれないのだ。だれとも争わず、仲よく暮らしてゆくのが、本意なんだ。

この世の中が、まちがつていることに気づかなかつたばかりに、俺も、いつしか欲深い人間になつてしまった。この町の人々と、そのような平和な生活がうらやましい……。」

頭の上の木のごずえには、美しい小鳥が、しきりに鳴いていました。彼は、なにを考えるとということもなく、夢を見るような気持ちで、小鳥の唄にききいつていました。

そこには、金持かねもちもなく、  
貧乏びんぼう人もなく、  
ただ、美うつくしい世せ界かい  
があるばかりでした。

# 青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 6」講談社

1977（昭和52）年4月10日第1刷

底本の親本：「未明童話集 4」丸善

1930（昭和5）年7月

初出：「国民新聞」

1930（昭和5）年1月1日

※表題は底本では、「船《ふね》でついた町《まち》」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：栗田美恵子

2019年2月22日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。



# 船でついた町

小川未明

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>